



寺山修司第一歌集『空には本』

海を知らぬ少女の前に麦藁帽の
われは両手をひろげていたり

生誕 90 年

寺山修司

— 放たれた歌

第一章 寺山修司 若き日の歌 — 『空には本』

第二章 角川短歌賞受賞の三歌人

江流馬三郎（中村雅之）／梅内美華子／渡邊新月

第三章 青森県歌壇、黎明期の息吹

2025.4.1－2026.3.21

(2025.12.29～2026.1.3は休館)

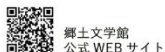
【開館時間】9:00～17:00（入館は16:30まで）

【観覧料】一般100円、小・中学生50円

(弘前市内の65歳以上、市内の小・中学生、市内の留学生、市内外の障がいのある方、ひろさき多子家族応援パスポート持参の方は無料)

写真提供 三沢市寺山修司記念館

弘前市立郷土文学館

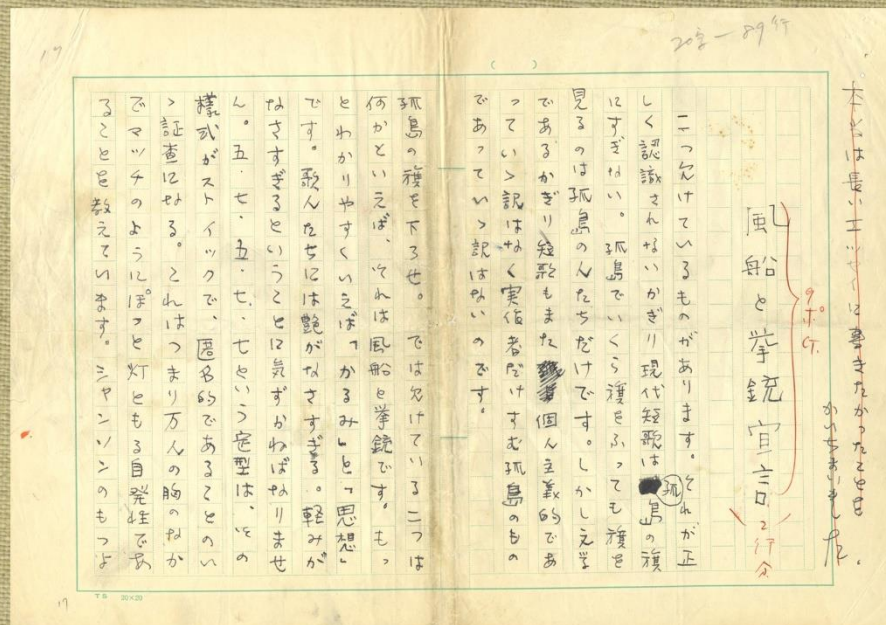


郷土文学館
公式WEBサイト

〒036-8356 青森県弘前市下白銀町 2-1 (追手門広場内)
TEL 0172-37-5505 FAX 0172-36-8360
E-mail kyoudo@city.hirosaki.lg.jp



第一章 寺山修司 若き日の歌—『空には本』



寺山修司原稿「風船と拳銃宣言」

寺山は、現代短歌を「孤島の旗」にたとえ、そこに欠けているものとして「風船」と「拳銃」、すなわち〈軽み〉と〈思想〉の2つを挙げている。本文は、『短歌研究』第14巻第3号（昭和32年3月）の「匿名批評」のページに呂賢尊の筆名で掲載された。

青森県近代文学館蔵

生誕90年 寺山修司—放たれた歌

昭和二十九（一九五四）年、寺山修司は「チェホフ祭」で『短歌研究』の「第二回五十首応募作品」特選を受賞、三十三年には第一歌集『空には本』を上梓、歌壇の寵児となりました。まさしく〈歌は放たれ〉、彼の歌は現代短歌の地平を切り拓きました。寺山に続いて新しい有力歌人が登場し、青森県からもすぐれた歌人が生まれました。

この企画展では、寺山の第一歌集『空には本』に光を当て、改めてその魅力に迫ります。そして、角川短歌賞を受賞した青森県ゆかりの歌人の第一歌集・受賞作品——江流馬三郎（中村雅之）歌集『縦走砂丘』（昭和49年）、梅内美華子歌集『横断歩道』（平成6年）、渡邊新月作品『楚樹』（令和5年）をとりあげ、現代に〈放たれた歌〉の魅力を紹介します。さらに、明治・大正期に遡り、新しい短歌に向かう青森県歌壇黎明期の情熱と息吹を概観します。

寺山修司は、昭和十（一九三五）年に弘前市に生まれ、今年が生誕九十年にあたります。この節目の年に、寺山によって〈放たれた歌〉の意義を浮き彫りにします。

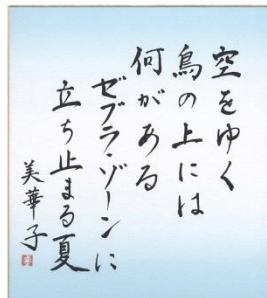
第二章 角川短歌賞受賞の三歌人



中村 雅之

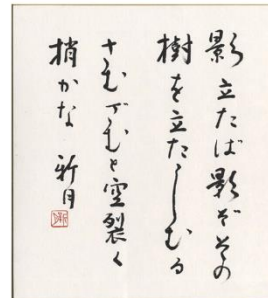
昭和3年、青森県西津軽郡車力村（現・つがる市）に生まれる。

昭和47年「縦走砂丘」（筆名・江流馬三郎）で第18回角川短歌賞受賞。



梅内 美華子

昭和45年、青森県八戸市に生まれる。
平成3年「横断歩道」（筆名・ビブラ・ゾーン）で第37回角川短歌賞受賞。



渡邊 新月

平成14年、青森県八戸市に生まれ、茨城県に育つ。

令和5年「楚樹」で第69回角川短歌賞受賞。

第三章 青森県歌壇、黎明期の息吹

若山牧水書簡 和田山蘭宛

明治45年5月26日付（封書・巻紙）

書中には次のような一節が書かれてある。「山蘭君、君は火のごとき青い酒を欲しませんか、寂寥と、生存と、火と、酒とを！ 親愛なる友よ、希くば永しへに若くあれ、永しへに鮮かにあれ、清くあれ！」

五所川原市教育委員会蔵

